



ちょっと待て」と待ったをかけてなぜそうなるのか見直したくなるような、あっという間の出来事である。気づいた時には画面後方からいきなり走りだした浅野が吉良に斬りかかり、わらわらと人々にとりおさえられている。それどころか、真山青果『元禄忠臣蔵』では、この松の廊下の浅野と吉良の刃傷沙汰の場さえ省筆されていた。

あれはなんだったのか。

溝口健二『元禄忠臣蔵』には、幾多の「忠臣蔵」もののなかでも、ただ「忠臣蔵」人気にあやかろうというだけではない、際立ったところがある。今回はそれについて考えてみたい。



溝口健二監督『元禄忠臣蔵』松の廊下の場面